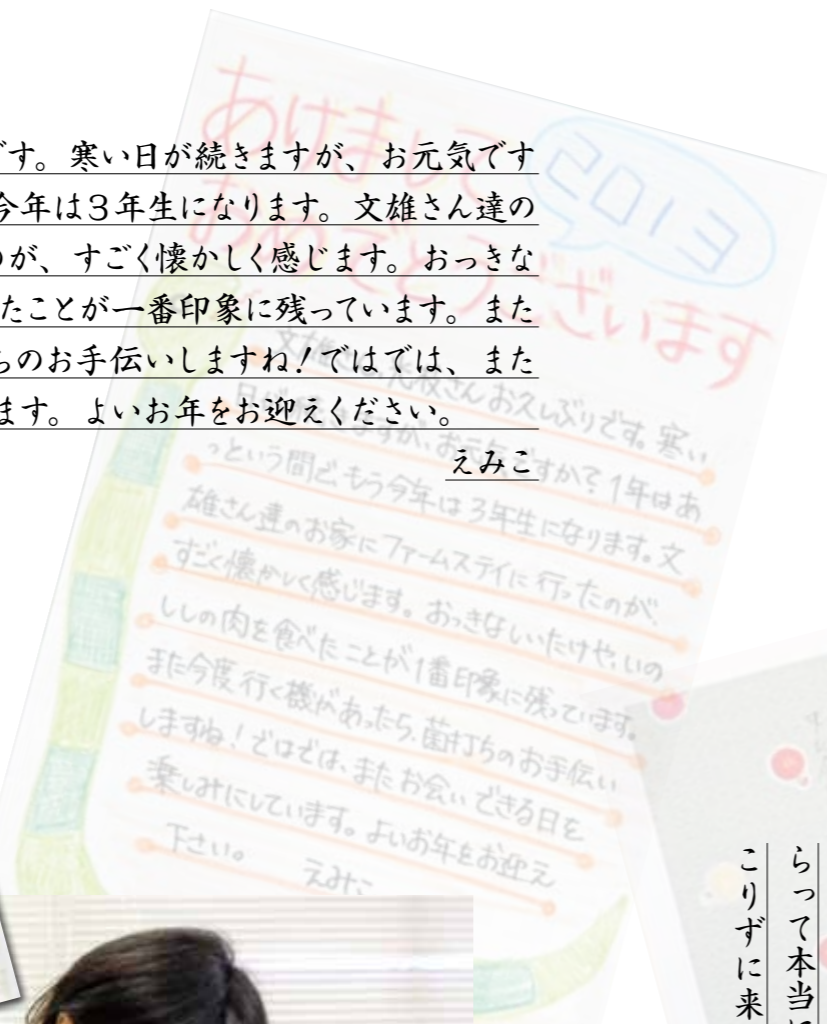


文雄さん光枝さんお久しぶりです。寒い日が続きますが、お元気ですか？1年はあっという間で、もう今年も3年生になります。文雄さん達のお家にファームステイに行ったのが、すごく懐かしく感じます。おっきなしいたげや、いのししの肉を食べたことが一番印象に残っています。また今度行く機会があったら、菌打ちのお手伝いしますね！ではでは、またお会いできる日を楽しみにしています。よいお年をお迎えください。



えみこ

昨年、やまゆりや家では本当にお世話になりました。収穫祭では、沢山売ってもらって本当にお疲れさまでした。また今年もこりずに来てね。ではお体大切にね。

石神文雄・光枝



都会の若者を「もてなした」つもりが、その笑顔に、「こちらが」もてなされた

都会と地方。若者と人生の先輩。違う環境に身を置く者同士が、合宿を介して出会い、心を通わせる。合宿は、個々の笑顔の足し算。その「和」が、地域の未来を輝かせる。



合宿地に必要な島田の唯一

合宿地に必要なものは。市内には陸上トラック・野球場・プール・音楽ホール・茶室などの設備や、気候・安全・食事などの環境は整っています。でもそれだけでは、合宿の聖地にはなりません。なぜなら、設備や環境は、市外にも存在するからです。合宿地として認められるためには「ここにしかない」「ここでしかない」が必要です。島田の「唯一」とは何なのでしょう。

地域の良さを発見する若者

東京農業大学世界学生フオーラムの一員でもある鈴木栄美子さん（2年）は、昨年5月のお茶刈りの合宿に参加し、石神夫妻宅へファームステイをしました。鈴木さんは将来、農業経営に携わる仕事に就きたいという夢から、農作業の大変さや農業地域の現状を知る目的で合宿にきたと言います。

「農作業は大変でしたが、石神さんをはじめとする地域の皆さんの優しさに支えられました。ここでしかできないことが体験できたり、人と関わることの大切さを学ぶことができました」と、私自身を成長させてくれました。

「地域の人との触れ合いの重みを感じていました。また、伊久美がどんなところなのかを、多くの人に伝えたい」とも話してくれました。島田市の唯一とは、地域の人との関わりを通じて、若者たち自身が発見するものです。それを発見できたとき「また来たい」という気持ちが生まれます。

地域の良さを発見する若者

伊久美では「地域の特徴に興味を持ってもらいたい」「多くの人に訪れて欲しい」という願い。若者たちと触れ合う時間を、とても大切にしています。その触れ合いにより強く結ばれた若者と地域が、お互いのゴールに向かって大きな一歩を踏み出しました。

スポーツ・文化合宿は、多くの市民の皆さんの協力で成り立っています。そして、合宿に来た若者は、支えられていることを理解しています。また、彼らには、このまちを元気にする力があります。市民一人一人の地域への思いの積み重ねが、やがて多くの若者を集め、地域全体が活気に満ちた将来のあるまちとなっていくます。その地域への思いこそ、島田の唯一ではないでしょうか。